



梅雨の到来

校長 柿沼 隆一

6月6日、関東地方が「梅雨に入ったらしい」というニュースを見ました。この「らしい」という表現が気になって、「梅雨入り」について気象庁のホームページを調べてみたところ、「数日から1週間程度の天気予報に基づき、気象情報として発表する。情報文には予報的な要素を含んでいる。梅雨入り宣言は使用しない」と説明がありました。天気予報通り行かないこともあることから、そのような表現を使っているようです。これから約1か月は雨の日が続くことになりませんが、災害を起こさない程度に実りのもとになる雨を降らせてほしいと思います。

3年生は5月16日から2泊3日で奈良、京都に修学旅行に出かけました。本宿中学校にとっては3年ぶりの修学旅行であり、無事に帰ってこられたことは本当に良かったと思います。2年生も5月31日から1泊2日で箱根、真鶴に自然教室に出かけ、こちらも無事に帰ってきました。これらの行事が無事終わることができたのは、生徒たちが健康管理やマスクなどのルールを守ったことでもあります。保護者の方の日頃からのご協力無くしてはうまくはいかなかったと思います。本当に感謝申し上げます。

私は修学旅行で生徒を引率しました。3日間とも天気に恵まれ、予定したものはすべて行うことができました。特に印象に残ったことは本宿中の生徒たちの純真な姿です。京都駅で近鉄のホームで待機していた時、ちょうど発車した電車に乗っていた他校の中学生が手を振ったのを見て、ほとんどの本宿中の生徒が手を振り返していました。幼いころからバスや電車の運転手に手を振るなど人に手を振る習慣が身に付いているのでしょうか。また、宿泊していたホテルの広間を交流の場として開放していましたが、そこに集まった20人を超える生徒たちが「人狼ゲーム」(嘘を見破るカードゲーム)を楽しんでいました。そこでの生徒たちのやりとりが非常に巧みであり、表現力が大へん豊かなことに感心しました。3日目には「能楽おもしろ講座」に参加しました。河村能舞台の河村純子さんの立ち居振る舞いに本物を感じ、生徒たちは自然と背筋が伸びて、話に引き込まれていきました。「やればできるのではなく、やらないからできない」という河村さんの実体験から得た教訓が強く印象に残った生徒が多くいました。名所を訪れて印象に残っている生徒も多いと思いますが、人との出会いから多くのことを学べた修学旅行でした。

ここのところ天気が不安定で、体調を崩す生徒も少なくありません。気温が高くなってきて熱中症のリスクも高まってきており、運動時にはマスクを外す指導をしています。ご家庭でも引き続き感染症の予防を徹底することと合わせて、学校生活が充実するよう生徒の健康管理をお願いします。



平安神宮



能楽おもしろ講座

【今年度の校外学習の予定】

1年生校外学習	6月24日	神奈川県南足柄市	方面	予定通り
2年生自然教室	5月31日～6月1日	神奈川県箱根町	方面	実施
3年生修学旅行	5月16日～18日	京都府・奈良県	方面	実施

※これらの予定は感染症の拡大状況により変更することがあります。

ブルー
サステナ青！ 箱根・真鶴に参上！！

2学年主任 元島 賢

2年ぶりの宿泊での自然教室。心配された天気も、青学年の想いに応えてくれるかのように、箱根に到着する頃にはほとんどあがり、クイズラリーやキャンプファイヤー、ビーチコーミング



も予定通り実施することができました。やや降っていた雨のおかげで、予定にはない箱根関所を通過し、班ごとに写真を撮ることができました。学年全員の素早い行動の賜物です。

クイズラリーでは、班長を中心に恩賜公園を巡りながら班行動を行いました。班員が解体している場面もありましたので、修学旅行への課題です。「キャンドルファイヤーはもうおなか一杯」小学校からの経験の中から、そんな声が多く飛び交っていたので「何としてでも」という気持ちが伝わったのではないのでしょうか。みんなで盛り上がり、思い出に残る一夜になったのではないのでしょうか。

SDGsの取組。2日目は、午前中に貝磨き体験と干物づくり（鰯のひらき）体験を行いました。貝磨き体験は近年では初の取組で、アワビの貝殻をピカピカキラキラ磨きあげて、アクセサリーにするという《ゴール12 つくる責任、つかう責任》を肌で感じることができました。仕上がったアクセサリーを、早速カバンやジャージのファスナーに嬉しそうに付ける姿が印象的でした。同じ形や柄、光沢感は唯一無二なので宝物にしてほしいです。干物づくり体験では、開始直後こそ生の鰯をさばくことに抵抗がある生徒もいました。恐る恐る包丁でさばき、血合いを抜き、きれいに仕上げることができました。すでに、各ご家庭にも出来上がった干物をお届けしています。ご家庭で、お子さんがさばいた鰯を囲み、団らんしている姿が目につかびます。おいしく召し上がられていれば幸いです。

“食”に対するありがたみを改めて実感することができたのではないのでしょうか。ビーチコーミングでは、フナ虫を避けながら（フナ虫に避けられながら）海岸付近の生物を観察し、ごみを拾うことで自然を大切にしたい気持ちに直接触れることができたのではないのでしょうか。

さて、スローガン《HARU》は達成できたのでしょうか。本宿中学校青学年が、自然教室を通じて自ら行動し、お互いを尊重しながら団結することができたのではないのでしょうか。解団式でも伝えましたが、自然教室実行委員をはじめ、各係での活動が充実していたからこそ、【班の中で一人ひとりに役割があり、全員が主役で、全員で作りに上げた】そんな自然教室になったのではないのでしょうか。大きな怪我等もなく、無事に終わることができました。ぜひ、今回の経験を学校生活や行事、来年度の修学旅行への活動に生かしていきましょう。

修学旅行を終えて

3 学年修学旅行実行委員長 斎藤 優羽

昨年の宿泊学習が一日遠足となってしまう、中学校では初めての宿泊学習となった今回の修学旅行、当初はとても不安なものでした。しかし、一日目の奈良公園散策、薬師寺での法話、二日目の班別自主行動、三日目のクラス別体験学習と河村能舞台での能楽講座、そして学年の仲間と過ごした新幹線や宿での時間、奈良・京都で過ごした三日間でとても良い思い出をつくることができました。

私が実行委員での活動、そして修学旅行を通して学んだことは、「仲間の大切さ」です。私は実行委員としての半年の活動、修学旅行の三日間の中で周りの仲間に助けられることが何度もありました。話し合いの時に何度もサポートしてくれた副委員長、進行が滞ったときに意見を発してくれた実行委員のみんな。班別行動中に班がバラバラになりかけたとき、元の状態に戻れるように協力してくれた班員のみんな。

私はこれまでの活動を振り返ってみて、自分一人では出来なかったことがたくさんあることに気付きました。そんな気付きと、たくさんの思い出の詰まった修学旅行を実現できたのは、支えてくれた保護者の方々、先生方、そして生徒のみなさんの協力があったからです。本当にありがとうございました。

これまでの修学旅行とは違い、いろいろと制限のある中での三日間でしたが、「楽しかった!」、「もっと長くいたい!」といった声が聞こえてきたことが、委員長として一番うれしかったことです。そして、同じようにこの三日間が良い思い出としてみんなの心に残っていれば幸いです。

～自然教室を終えて～

2 学年自然教室実行委員長 中村 諤里

私たち青学年は、5月31日-6月1日に1泊2日で箱根・真鶴方面に自然教室に行ってきました。各係、各班が自然教室に向けて準備をし、無事に自然教室を成功させることができました。

この2日間、SDGsに基づいた活動を行いました。例えば「貝磨き体験」では、磨くという技術や集中力を高めることはもちろん、同時にSDGs「つくる責任・つかう責任」に基づき、ものを作ることの大変さや大切さを知りました。

事後学習では、自然教室で学んだことや調べたことについて、各自で新聞を制作しています。自然教室に関するすべての経験や学んだことを、普段の学校生活に生かしていきたいと思います。また、今、自分たちにできることを考え、少しでもSDGsの目標を達成していきたいと思います。



